

本園において、職員は37名が働いている。

理事長から、職務を大きく5つに分けて、それぞれに自己評価が求められた。

5つの職務は、保育士(新任から3年以内、4年以上経験者、主任管理職)、厨房職員、事務職員とされた。多岐にわたる設問に自己評価を行って理事長に提出し、理事長から指名された他者による評価を加えたものが理事長のもとに集約されている。

この自己評価において各自が共通して問われたのは、

- ・自分が担当する職務における専門性への理解と研鑽、
- ・ICTに関する理解と技術、
- ・これらを踏まえて職場において協働する意識、
- ・私学としての建学の精神への理解とそれを深める意欲

であった。日常的に展開する保育に関するものとして、全体の中から保育士の自己評価を抜き出し、各自が下した評価をそれなりに取り組んでいるものを中心に、±2点の幅で点数化し、ABCDに置き換えて公開用の資料とした。PTA役員から委嘱した学校評価委員に、資料を検討いただいて、妥当とされた結果として公開する。

本園では、キリスト教の精神に基づき、乳幼児が神様から与えられた尊い命を生き、成長する力を秘めた「光の子」であり、目に映る事柄の背景に神様の守りと導きがあることを信じ、安らぐ心、感謝する心、優しい心が育っていくことを大切にしている。2021年度は、前年度から続くコロナウィルス感染症の広がりによって、行事の変更・中止などの制約を受けたが、基本的精神を守って運営できたことを感謝する。

本園が掲げる6つの保育目標

1. 神の愛を知り、命を大切にする。
2. 神から与えられる命の尊さを知り、命を大切にする。
3. 思いやりの心を持ち、友達にやさしくできる。
4. 美しいものに感動し、自分たちも美しいものを作り出す。
5. 自分の考えをはっきり述べ、友達との生活も大切にする。
6. 全身を使って、のびのびと遊ぶ。

この保育目標の達成のため、自己評価を行った「職務における専門性への理解と研鑽」「ICTに関する理解と技術」「協働する意識」「建学の精神への理解と深める意欲」の各項目は、それぞれに支える力となっている。

なお、自己評価は主観的なものであり、周囲の評価と同様ではない。高評価を付したものが他者によって評価されていないこと、また、その逆も起こりうることを踏まえつつの報告

である。おおむね、個人の自己評価は控え目に判断されており、平均化されているが、分野によって苦手意識が反映するものもあった。それが顕著に表れていたのは、ピアノ伴奏、コンピュータの扱いであった。技術的な研鑽と共に、いずれも改善の可能性があるものとしてうけとめ、研鑽の機会を持つことを留意したい。

また、私学としての建学の精神への理解とその具現化については、キリスト教を背景に持たない職員が、取り組み方を含めて模索している様子うかがえた。

項目	取り組み状況	自己評価
日常的な保育に関して	保育目標を意識し、遊びや制作活動を通して、充実を目指している。園児たちを受け止める、力と、グループをよく見て分析し、必要な対応を適宜なすことが求められる。健康観察を含め、丁寧な対応が認められる。自己評価でも保育展開にマイナス評価を付すものは見受けられない。	B+
保護者との関わりに関して	乳幼児それぞれの情報を共有できるよう送迎時の対話にも心がけ、対応している。「連絡ノート」に記される内容への丁寧な対応がなされている。電話での家庭連絡の際も、ポジティブな対話を心がけている。	A-
保育者の資質・能力・良識に関して	園児に楽しさを伝えるために、歌唱、伴奏、体を動かすリズム感、絵本などの読み聞かせ等の技術力、園児の食事・排泄補助の知識と実践力、外部との連絡における社会的な対応力、その他、多くの項目がある。得手不得手はあるが、互いに協働する意欲をもって対応している。シフトの調整が大変な中、積極的に冬期間の研修に多くが取り組んだ。	B+
協働する意識に関して	毎週行われる職員会議を中心に、会議録を共有し、全体の運営に結びつけ、自分の役割を認識している。	A-
建学の精神に関して	コロナウィルス感染症への対応として、家庭保育への協力を求める期間が長く、合同礼拝も割愛されることが多かった。各職員の評価として、理解不足やそれゆえに担い得るかの不安もあった。今後の積極的な取り組みを期待する。	B-